

## メッセージアウトライン マタイの福音書5：9 「平和をつくる者は幸いです」

[9]「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです」

この箇所は主イエスが教えられた幸いのメッセージの七番目の箇所である。今まで教えられてきた六つの幸いのメッセージ(3-8節)からもわかるように、生まれつきのままの人がこれらのことばをそのまま実行に移すことは到底不可能なことであった。

主イエスがその伝道生活の初めに言われた「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」(4:17)の「天の御国」とは地上にある国家とは違う全く新しい国のことであった。そしてイエス・キリストにあって新しく生まれた変わった人だけが、この新しい生き方をし、新しい国に生きることができるのである。当時のユダヤ人にとってはこの「平和をつくる者は幸いです」とのことばは非常に大きな衝撃であった。なぜなら当時のユダヤ人はローマ帝国の支配下にあり、その圧政を武力、戦いによってはねのけないかぎり、ユダヤには平和は来ないと考え方が一般的であった。そして来るべきメシアの王国は、軍事的、民族的であり、目に見える形で来るものだと考えていたのである。これはユダヤ人だけではなく、いつの時代のどこの国、どこの地方の人々でも陥りがちな考えである。ユダヤ人たちはやがて自分たちを救うメシアが現れ、自ら王となり、彼らをすべての束縛から解放し、そしてユダヤ人を最高、最強の民族として他のすべての民族の上に君臨させると考えていたのである。しかし、イエスが言われたのはこの世のものではなく、神の国のことであった。

そしてこの幸いのメッセージは現代の世界に対しても非常に力強く迫ってくるのである。

過去の時代だけではなく、なぜ知的、道徳的に進歩しているはずの今日でも戦争があるのであろうか。なぜ国家間の緊張があるのか。国連や国家間の外交努力にもかかわらず、一向に争いは止まず、かえって拡大し、テロや混乱、悲嘆、苦悩、憎しみや怒りの連鎖は続いている。新聞やテレビ、ラジオ、ネットなどを見るときに、これらの話題に事欠くことはない。

なぜこのような出来事が過去も今日もあるのであろうか。聖書によればそれらに答えるただ一つの答えは「人間の罪」である。そこから真の神を知らず、求めず、

無視し、あるいは反抗する的外れで自己中心な生き方、あらゆる不義、悪、貪欲、悪意、ねたみ、殺意、争い、欺き、高慢、不品行、偶像礼拝といったものが出てくる。→ローマ1:20~32

個人と個人、国と国、地方と地方、グループとグループ等々。究極的な問題はみなそこにあると言える。それゆえ、人間の心が変わえられるまではいくらいろいろな操作を試してみても本質的な問題の解決には至らないのである。問題の源が川の流れる源泉にあるならば、いくら川の状態を改良しようとして、どんなに流れをせき止めたり、ダムを造ったり、薬剤を投げ込んだりしても一時的であり、また上流から汚れた水が流れてくるならば何も変わらない。

私たちは源に遡らなければならない。そこに本当の問題がある。聖書は人の心に問題があることを繰り返し示している。そして人がそのような限り、決して真の平和は来ないであろう。

この罪の問題の解決こそ、この世に真の平和をもたらすことになる。ではその平和をつくり出す人とはどんな人なのか。そのような人は生まれつきの罪の性質とは違ったきよい新しい心を持った人でなければならない。ねたみや嫉妬や自己中心、そのほかのあらゆる恐ろしいものが心の中に満ちている人は問題を起こす人になっても、決して平和をつくる人にはなれないであろう。

生まれながらの人間にとっては、あらゆることにおいて「それが自分にどんな影響を及ぼすのか、どんな意味があるのか、自分にとって益になるのか、損になるのか」と考えがちである。そしてそこから争いが起こってくる。

イエスの教える平和をつくる者とは、神の前に自分は無力な心の貧しい者であり(3)、自分の罪を悲しむ者であり(4)、それゆえに神によって導かれなければならないことを知る謙虚な心と優しさ、柔和さを持つ者であり(5)、神との正しい関係に再び立ち返らせていただきたいと義に飢え乾く者であり(6)、あわれみ深い者(7)、イエス・キリストにあって心のきよくされている者(8)こそが平和をつくる者になることを教えられる。

イエス・キリストを自分の救い主と信じ従う信仰者こそが真の意味でこの世に平和をつくり出す者となることができるのである。そのような人は対人関係においてもただ神の栄光を現すことを求めようと努力する。→ I コリント10:31「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい」

そしてこのような人に約束されている祝福は「その人たちは神の子と呼ばれる」である。

栄光に満ちた、天地の創造主である神がご自身の子として認めてくださる。これほどすばらしく光

栄なことはない。

この神は聖であり、義であり、絶対的なお方であるとともに平和の神でもある。そしてこの平和の神はご自身のひとり子イエス・キリストをこの世に人として送られ、私たちを救い、神との平和を得る者としてくださった。そしてそれはまた私たちがこの世において他の人々との間に平和を得るためでもあった。→エペソ2:14~19「実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。また、キリストは来て、遠くにいたあなたがたに平和を、また近くにいた人々にも平和を、福音として伝えられました。このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです」

→ヘブル12:14「すべての人との平和を追い求め、また、聖さを追い求めなさい。聖さがなければ、だれも主を見ることはできません」

イエス・キリストにある私たちも平和をつくる者、神の栄光を現す者、神の子と呼ばれるにふさわしい者として歩んでいくことが大切である。